

# 日本政治学会 会報

The JPSSA News

No.51

JUN.2006

## 世界政治学会 (IPSA) 第20回世界大会 (福岡) への参加の呼びかけ

大会組織委員長 佐々木 毅

日本政治学会が長年にわたって膨大なエネルギーを投じ、準備に準備を重ねてきた世界政治学会の第20回世界大会が7月9日から13日まで福岡市で開催されます。すでにご存知のことと思いますが、今年度の日本政治学会の総会・研究会もこの日程にあわせて福岡市で開催されることになっております。日本の政治学の歴史においてこの記念すべき機会に是非とも会員の皆さんに参加していただきたく、ここに筆を執った次第です。

世界政治学会 (International Political Science Association) は世界各国の政治学会が参加して組織した国際的な組織です。世界大会 (World Congress) は三年に一回開催される、その最も重要な学術発表の機会です。世界政治学会の活動は特定の研究テーマに応じた国際的な研究グループなどによっても担われ、極めて広範で継続的なものですが、こうした活動を含め、世界大会はその全貌が明らかにされる最も重要な機会であります。当然、膨大な数のパネルが用意され、参加者は自らの関心に従って現在の政治学の動向を知るまたとない機会に恵まれることができます。また、そこでは同じようなテーマに取り組んでいる諸外国の研究者を知り、新たな国際的なネットワーク作りに絶好な場になることは言うまでもありません。その意味では世界大会は研究成果を知る機会になるだけでなく、参加者の今後の研究活動への出発点を提供することができます。

世界大会は世界中の地域でこれまで開催され、私自身、企画委員や執行委員として何度も参加し

てきましたが、その度に開催地及びその周辺の地域の政治学者の世界政治学会への関心を高め、その参加意識を涵養する点で大きな役割を果たしてきました。勿論、個人の資格で世界政治学会の会員となり、あるいは、特定の研究グループのメンバーになることはいくらかでも可能であります。今回、われわれが日本で世界大会を開催した最大の意図は日本及び周辺の国々の政治学研究者に世界政治学会への関心と積極的な参加を促すことにありました。特に、若い研究者たちがこの機会を積極的に活用し、自らの研究を通して国際的にその活動の場を広げることができるよう切望して止みません。難しい議論は先にしてとにかく世界大会に顔を出し、何が議論されているか、どんなグループが自分の関心に近い活動をしているか、まずは現場探検をしてみてください。そして率直な意見交換の場として有効活用をしてみてください。

勿論、「民主主義は機能しているか」という共通テーマは政治学者であれば誰でも関心を持たざるを得ないテーマです。すでに世界中から近年の世界大会を遙かに上回る数の参加者が予定されており、われわれ組織委員会としては大会の成功に向けて最後の力を振り絞っております。しかし、大会の成否を握っているのは日本政治学会会員の参加であり、関心であります。会員の皆さんにはこれまでもいろいろとご協力をいただいて参りましたが、大会への参加という形で最後のご協力を是非ともお願い申し上げます。

それでは福岡で会いましょう！

## 2006年度日本政治学会研究会企画について

日本政治学会企画委員長 竹中 千春

「民主主義 (Democracy)」と「安全保障 (Security)」は、21世紀の政治学における重要なキーワードだ——多くの人々が、そう考えているのではないのでしょうか。冷戦後、先進国のみならず、途上国や旧社会主義国も民主化し、そのプロセスは今なお進んでいます。けれども、世界は平和になるどころか、より危険な場所になったようにも見えます。民族紛争や宗教対立、テロや暴動など、政治的な暴力は、専門家のみならず、今や普通の市民の関心事です。私たちは、政治学者として、この深刻な不安にどう答えるのか。2006年度の研究会は、そうした視点から企画しました。

世界政治学会 (IPSA) 福岡大会は、「民主主義は機能しているか (Is Democracy Working?)」を共通テーマに選びました。非常に重い問いです。民主主義はうまく機能しているか。機能不全は起こっていないか。欠陥を是正できるのか。こうした問いと関連して、対テロ戦争とグローバリゼーションの最中にある世界では、次のような疑問も浮かびます。一つは、グローバリゼーションの過程で、民主主義的な国家は市民の安全な暮らしを守れるのか。もう一つは、民主主義的な国家は、激動する国際関係の中で平和を提供できるか、です。IPSAとの共同開催の意味を深めるよう、今年度の研究会は、大きなテーマとして「民主主義と安全保障——日本と東アジア

から考える」を掲げようと思います。

7月9日(日)全日を使い、共通論題二つを続けて開催する形式とします。午前の部は「民主主義は市民社会を守るか」、午後の部は「民主主義は国際平和をつくるか」です。午前の部では、「安全保障」を広くとらえ、経済・労働・教育・福祉など暮らしの「安全」や、社会的弱者(たとえば貧困層・マイノリティ・ジェンダー・移民)の人権と「安全」を考察します。午後の部では、民主化への胎動をはらむ東アジアで、「安全保障」と国際平和をどう構築するか、誰がそれを担うか、を考察したいと考えています。

日本は、アジアのみならず、世界的な学術ネットワークの拠点です。その力量を十分に発揮し、学会員の方々とともに、世界各地から福岡に集まる専門家の方々の関心を引きつける企画にしたいと思います。開催方法にも工夫をこらします。研究会は基本的に日本語で行いますが、言語の壁を越えたコミュニケーションをはかるため、英語への同時通訳を提供します。また、識者の自由な討論と同時に、会場との円滑なコミュニケーションを実現すべく、パネル・ディスカッション形式を取ります。

私たちの研究成果を確実に発信し、国内・国外に存在感のある日本政治学会をアピールするよう、企画委員一同、精一杯努力する所存です。皆様のご協力とご参加を心よりお願い致します。

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 2006年度日本政治学会研究会プログラム

7月9日（日）

研究会 「民主主義と安全保障——日本と東アジアから考える」  
(Democracy and Security in Japan and East Asia)

午前の部：「民主主義は市民社会を守るか」

（9：30-12：00 国際会議場メインホール）

司 会：杉田敦（法政大学）

パネリスト：テッサ・モーリス＝スズキ（オーストラリア国立大学）

新川敏光（京都大学）

斎藤純一（早稲田大学）

酒井哲哉（東京大学）

総会（13：00-14：00 国際会議場メインホール）

午後の部：「民主主義は国際平和をつくるか」

（14：00-16：30 国際会議場メインホール）

司 会：下斗米伸夫（法政大学）

パネリスト：明石康（日本政府代表・スリランカ平和構築及び復旧・復興担当）

毛里和子（早稲田大学）

栗栖薫子（大阪大学）

藤原帰一（東京大学）

\*午前の部・午後の部ともパネル・ディスカッション形式で行います。

\*報告・討論は基本的に日本語です。英語での同時通訳を提供します。

\*都合により、プログラムの内容を若干修正致しております。

7月10日（月）

分科会（ポスターセッション）

（11：00-17：00 国際会議場5階ロビー）

スケジュールおよび開催会場などについて、日本政治学会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpsa2>) と2006年世界政治学会・福岡大会組織委員会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpsa2/ipsa>) のウェブサイトをご参照ください。

## IPSA世界大会日本側組織委員会企画プログラム

2006年世界政治学会・福岡大会  
組織委員会（LOC）プログラム小委員長

小林 良彰

2006年世界政治学会・福岡大会が7月9日～13日に福岡国際会議場で開催されます。この大会は三年に一度、開かれるもので、日本では初めての開催になります。今回の大会では、日本側組織委員会（LOC）企画30セッションの他、メインテーマ51セッション、リサーチコミッティ（RC）158セッション、会員応募によるものが214セッションの計453セッションが行われる予定です。これは、これまでのIPSA世界大会の中でも最大の規模となります。福岡大会の詳細については、IPSA本部のホームページ (<http://www.fukuoka2006.com/en/>) または福岡大会のホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/jpsa2/ipsa/mayorofFukuoka.htm>) に掲載されておりますので、ご参照ください。

福岡大会で行われるLOC企画30セッションについて、下記の通り一覧にしましたのでご参考にしてください。なお、午前に行われるセッションは最大13:00まで（13日は会場が閉会式準備のため12:00まで）、午後に行われるセッションは最大19:00まで延長される可能性があります。

会員の皆さまの多数のご参加をお待ち致しております。

### 1. 近代日本をつくった人々—福沢諭吉・大隈重信・渋沢栄一

10日 9:30-12:00 福岡国際会議場201

コンピーナー：五百旗頭 真

司会：渡辺浩（東京大学）

報告：

1. 福沢諭吉・知的社会と私立大学  
北岡伸一（国連代表部次席大使）
2. 大隈重信・政党と私立大学  
五百旗頭薫（首都大学東京）
3. 渋沢栄一・ビジネスと社会事業  
渋沢雅英（渋沢栄一記念財団）

討論：ドナルド・キーン（コロンビア大学）

陶徳民（関西大学）

### 2. マスメディアと政治—変わるメディアと変わる政治

11日 15:30-18:00 福岡国際会議場201

コンピーナー：蒲島郁夫

司会：サミュエル・ポプキン

（カリフォルニア大学  
サンディエゴ校）

報告：

1. 売れるニュース：メディアの競争とニュースの内容  
ジェームズ・ハミルトン（デューク大学）

### 2. 娯楽化する政治

マット・バーン

（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）

### 3. 日本における変わるメディア、変わる政治

谷口将紀（東京大学）

### 4. 中国におけるメディアと世論

スーザン・シャーク

（カリフォルニア大学サンディエゴ校）

### 5. 変わるメディア、変わる政治組織

サミュエル・ポプキン

（カリフォルニア大学サンディエゴ校）

### 6. マスメディアと小泉政治

蒲島郁夫（東京大学）

ジル・スティール（東京大学）

討論：サミュエル・ポプキン

（カリフォルニア大学サンディエゴ校）

### 3. 新しい政治文化（ニューポリティカルカルチャー・NPC）の国際比較

11日 9:30-12:00 福岡国際会議場201

コンピーナー：小林良彰

司会：パク・チャンウク（ソウル国立大学）

報告：

1. 米国におけるニュー・ポリティカル・カルチャー  
テリー・クラーク（シカゴ大学）

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 2. 東アジアにおけるニュー・ポリティカル・カルチャー

金本亜弓 (慶應義塾大学)

## 3. 日本におけるニュー・ポリティカル・カルチャー

中谷美穂 (明治学院大学)

## 4. 韓国におけるニュー・ポリティカル・カルチャー

ジャン・ウォンホ (ソウル市立大学)

討論：平野浩 (学習院大学)

キム・ウーサン (延世大学)

## 4. ソーシャル・ネットワークが政治行動と社会関係資本に及ぼす効果の研究

13日 9:30-12:00 福岡国際会議場202

コンピーナー：安野智子

司会：池田謙一 (東京大学)

報告：

### 1. 民主政治におけるコミュニケーション、不同意、意見の成極化

ロバート・ハックフェルト

(カリフォルニア大学デイビス校)

### 2. 民主主義を(職場で)機能させる：職場で生じる多様な政治的会話の帰結

ジェフリー・モンダック (イリノイ大学)

ダイアナ・マッツ (ペンシルバニア大学)

### 3. 世論過程におけるパーソナル・ネットワークの効果

安野智子 (中央大学)

### 4. 信頼の政治工学的生成：地域通貨、ソーシャル・ネットワーク、そして社会関係資本の生成

ション・リチ (ペース大学)

池田謙一 (東京大学)

討論：ルディガー・シュミットベック

(デュースブルグ-エッセン大学)

ナタリア・モラレス

(フィリピン・ディリマン大学)

## 5. 制度的制約下の政治行動：「選挙制度が投票行動に及ぼす効果の国際比較研究 (CSES)」データに基づいて

12日 15:30-18:00 福岡国際会議場202

コンピーナー：池田謙一

司会：池田謙一 (東京大学)

報告：

### 1. 社会的亀裂の代理人としての政党：比較政治的に見たニュー・デモクラシー

イアン・マカリスト

(オーストラリア国立大学)

ステファン・ホホワイト (グラスゴー大学)

### 2. ヨーロッパ政治システムにおける民主主義への支持と満足感との関連性

クリスチャン・ヘーファー

(アバディーン大学)

### 3. 選挙制度から見た民主主義への満足感

ジャック・トマセン (トエンテ大学)

キース・アーツ (トエンテ大学)

### 4. 民主主義を強化した選挙：2001年、2005年のタイ議会選挙を比較する

バート・アールブリットン

(ミシシッピ大学)

ウィルワディ・ビュレクル

(The King Prajadhipok's Institute)

討論：山田真裕 (関西学院大学)

## 6. 投票行動 日本の衆議院選挙における制度変更とその影響

12日 15:30-18:00 福岡国際会議場201

コンピーナー：河野武司

司会：河野武司 (慶應義塾大学)

報告：

### 1. 民主党における変革の10年—イデオロギーと地域特性—

ロバート・ウィナー (コーネル大学)

### 2. 衆議院における新選挙制度はそれ以前と異なる特性を持った候補者を登場させたか？

浅野正彦 (拓殖大学)

### 3. 衆議院における新選挙制度が投票行動と選挙キャンペーン戦略に及ぼした影響

森裕樹 (同志社大学)

討論：ジル・スティール (東京大学)

## 7. 比較議会研究

10日 9:30-12:00 福岡国際会議場204

コンピーナー：川人貞史

# 学 会 ニ ュ ー ス

司会：川人貞史（東北大学）

報告：

1. 民主議会における議題設定権：米、日、独、伊における議会過程と帰結の比較  
ゲアリー・コックス  
（カリフォルニア大学サンディエゴ校）  
マシュー・マッカビズ  
（カリフォルニア大学サンディエゴ校）
  2. 議会の分極化の比較研究  
デヴィッド・ブレイディ  
（スタンフォード大学）  
デヴィッド・エプスタイン  
（コロンビア大学）  
シャリン・オハロラン  
（コロンビア大学）
  3. 国会における時間的制約と議題コントロール  
川人貞史（東北大学）  
増山幹高（慶應義塾大学）
  4. 立法審議による行政・司法裁量の統制  
福元健太郎（学習院大学）
- 討論：マイケル・レイヴァー  
（ニューヨーク大学）

## 8. 政策形成（政策過程論の再建）

13日 9：30-12：00 福岡国際会議場201

コンピーナー：飯尾潤

司会：谷聖美（岡山大学）

報告：

1. 道路公団民営化における目的の流動性  
飯尾潤（政策研究大学院大学）
  2. 新自由主義改革の日英比較  
内山融（東京大学）
  3. 社会保障改革とその含意  
竹中治堅（政策研究大学院大学）
- 討論：足立幸男（京都大学）

## 9. 比較地方自治：地方分権の再検討

10日 15：30-18：00 福岡国際会議場201

コンピーナー：加茂利男

司会：加茂利男（大阪市立大学）

報告：

1. 地方分権と自治体間関係の革命

オリビエ・ボラーズ（政治研究所、パリ）

2. 地方分権から地域化（Regionalization）へ

アリヴェイコ・アンティロイコ  
（タンペレ大学）

ペッカ・ヴァルカマ（タンペレ大学）

3. 地方自治の近代化と分権改革  
ナカリン・メクトライラート  
（タマサート大学）

討論：稲継裕明（大阪市立大学）

## 10. 政治不信と政策形成

10日 15：30-18：00 福岡国際会議場204

コンピーナー：市島宗典

司会：金永来（亜州大学）

報告：

1. 「政策パフォーマンスと政治不信—政治不信と市民による支持についての説明としてのソーシャル・キャピタルと政策パフォーマンス理論」  
ケネス・ニュートン（サザンプトン大学）
  2. 「官僚の独立性とモニタリング—日本の政策形成における火災報知機と煙探知機」  
村松岐夫（学習院大学）
  3. 「プロジェクションを超えて—日本における争点投票への近接性モデルと方向性モデルの適用」  
谷口尚子（帝京大学）
  4. 「日本における政府支出に対する国政選挙の影響に関する分析」  
市島宗典（中京大学）
  5. 「欧州連合における政治的コミュニケーションと公的領域についての論点」  
譲原瑞枝（慶應義塾大学）
- 討論：湯淺壱道（九州国際大学）

## 11. K P S A（韓国政治学会）セッション「韓国の市民社会」

10日 15：30-18：00 福岡サンパレス 4 F 第3会議室

コンピーナー：森正

司会：金基正（延世大学）

報告：

# 学 会 ニ ュ ー ス

1. 韓国の民主化過程におけるナショナリズムとフェミニズムの(再)形成  
徐禎敏(ハワイ大学マノア校)
  2. 韓国における民主化以降の政党と市民社会の関係  
任燮伯(高麗大学)
  3. 韓国市民の対米意識の変容  
金炳局(高麗大学)  
討論: 朴喆熙(ソウル国立大学)  
羅一慶(中京大学)
- 12. ACPR1 アジアバロメーター：いかにして改善できるか？ 他の世界規模の調査と比較して**  
11日 15:30-18:00 福岡国際会議場204  
コンピーナー: 猪口孝  
司会: 猪口孝(中央大学)  
報告:  
1. アジアバロメータ: 目的、狙い、と長所  
ミゲル・バサネズ(メキシコ工科大学)  
2. コリア・バロメータ  
シン・ドーチョル(ミズーリ大学)  
3. 比較 真鍋一史(関西学院大学)  
討論: 吉野諒三(統計数理研究所)
- 13. ACPR2 市民と民主主義：アジアとヨーロッパ**  
11日 9:30-12:00 福岡国際会議場204  
コンピーナー: 猪口孝  
司会: イアン・マーシュ  
(オーストラリア国立大学)  
報告:  
1. 民主主義の政治文化  
ジャン・ブロンデル  
(欧州連合大学研究所)  
2. アジアとヨーロッパにおける政治参加と政治的平等  
蒲島郁夫(東京大学)  
3. グローバリゼーションと国営能力  
イアン・マーシュ  
(オーストラリア国立大学)  
4. グローバリゼーションとアイデンティティー  
リチャード・シノット(ダブリン大学)
5. フランス・ナショナリズムからヨーロッパ・コスモポリタニズム  
イブ・シュメール  
(グルノーブル政治大学院)  
討論: 猪口孝(中央大学)
- 14. ACPR3 政治研究の為にアジア/コンソーシアム：目的、狙いと長所**  
12日 9:30-12:00 福岡国際会議場204  
コンピーナー: 猪口孝  
司会: アン・チョンシー(ソウル国立大学)  
報告:  
1. ACPR 業績と抱負  
猪口孝(中央大学)  
2. 意図的な民主主義によるローカル・ガバナンス  
バオガン・ホー(タスマニア大学)  
3. アジアで花咲く市民社会  
ジェームス・タン(香港大学)  
討論: バク・チャンウク(ソウル国立大学)
- 15. ACPR4 政治文化研究のルネッサンス？ 組織に対する信頼：アジアとヨーロッパ**  
13日 9:30-12:00 福岡国際会議場204  
コンピーナー: 猪口孝  
司会: ケネス・ニュートン(サザンプトン大学)  
報告:  
1. アイルランドの政治文化：重なりあうコンセンサスと暫定協定  
バット・リオンズ  
(チェコ科学アカデミー)  
2. スウェーデンでの政治文化：批判的の市民と積極的な国家  
アン＝カトリーヌ・ユンガー  
(セーデルテルン大学)  
討論: 猪口孝(中央大学)
- 16. ACPR5 政治文化研究のルネッサンス？ アジアとヨーロッパにおけるアイデンティティー**  
12日 15:30-18:00 福岡国際会議場204  
コンピーナー: 猪口孝

司会：猪口孝（中央大学）

報告：

1. 中国における政治の文化と発展  
グオ・ティンピン（復旦大学）
2. マレーシアの政治文化：多文化社会において競い合う統合主義  
ヨハン・サラバナムッチュ  
（マレーシア科学大学）

3. グローバル社会におけるタイの実用主義  
チャイワット・カムチュー  
（チュラロンコン大学）

討論：シン・ドーチョル（ミズーリ大学）

## 17. ジェンダーⅠ．戦争と民主主義のジェンダー分析

10日 9：30-12：00 福岡国際会議場202

コンピーナー：竹中千春

司会：竹中千春（明治学院大学）

報告：

1. 紛争後の平和構築・イスラム・女性の人権  
デニス・カンディヨッティ  
（ロンドン大学SOAS）
2. 韓国における民主主義とMasculinityの政治  
クォン・インスク（権仁淑）  
（韓国・明知大学校）

3. 南アジア女性にとっての戦争と武力紛争  
ウルヴァシ・ブタリア  
（ズバーン出版、インド）

討論：磯崎典世（学習院大学）

## 18. ジェンダーⅡ．リプロダクティブ・ライツに関する比較政治：合衆国・東欧・韓国・日本

10日 15：30-18：00 福岡国際会議場202

コンピーナー：岩本美砂子

司会：岩本美砂子（三重大学）

報告：

1. 合衆国におけるリプロダクティブ・ライツをめぐる闘い  
ドロシー・E・マクブライド  
（アトランティック大学）

2. 避妊と中絶と国家社会主義：中東欧・ロシア

ダグ・ステンヴォル（ベルゲン大学）

3. 韓国における男女出生比率の不均衡とリプロダクティブ・ライツ  
ビョン・ファスン（韓国女性開発院）

討論：岩本美砂子（三重大学）

## 19. 比較政治学会1 福祉国家のゆくえ 福祉改革をめぐる政治と市民権の再定義

11日 9：30-12：00 福岡国際会議場202

コンピーナー：宮本太郎

司会：山口二郎（北海道大学）

報告：

1. アクティブな社会国家へ その解放的モデルと抑圧的モデルの対抗  
フィリップ・ヴァン・パライス  
（ルーバン・カトリック大学）

2. 福祉国家のパラドクス 中間層の支持獲得をめぐる

ヨナス・ヒンフォルシュ

（ヨーテボリ大学）

3. 共和主義的なポスト生産中心主義 社会政策とアクティブ・シティズンシップ  
スチュワート・ホワイト

（オックスフォード大学）

討論：宮本太郎（北海道大学）

## 20. 比較政治学会2 民主主義体制持続の条件

11日 15：30-18：00 福岡国際会議場202

コンピーナー：恒川恵市

司会：辻中豊（筑波大学）

報告：

1. 中東欧における民主主義の安定  
フェルディナンド・ミューラーロンメル  
（Univ. of Lüneburg）

2. 制度的不安定から民主主義へ—ラテンアメリカにおける民主主義持続の分析  
エンリケ・ペルツォッティ

（Torcuato Di Tella Univ.）

3. 民主化は進んでいるのか—サブサハラ・アフリカにおける政治実践の評価と民主主義持続の分析

遠藤貢（東京大学）

討論：恒川恵市（東京大学）



## 21. 比較政治学会 3 政党制をめぐる議論の変化と現在

12日 9:30-12:00 福岡国際会議場202

コンピーナー：加藤淳子

司会：平島健司（東京大学）

報告：

1. 政党制と政党間競争のダイナミクス  
マイケル・レイヴァー  
(ニューヨーク大学)
  2. EUにおける政党制の多層化に関する分析：25か国におけるelectoral volatilityの1970年代から2000年までの変化  
ダニエル・カラマーニ  
(バーミンガム大学)
  3. 英国と日本における政治の大統領制化：選挙変化と政党の対応の比較  
阪野智一（神戸大学）
  4. 水平的統合と垂直的統合：1981年来のフランスの政党制の分極化  
中山洋平（東京大学）
- 討論：平島健司（東京大学）

## 22. 政治思想学会 1：19世紀リベラリズム再考

10日 15:30-18:00 福岡国際会議場203

コンピーナー：関口正司

司会：関口正司（九州大学）

報告：

1. 19世紀のフランス自由主義：その遅まきの勝利と新たな挑戦  
堤林 剣（慶應義塾大学）
  2. 自由主義的理性に対するニーチェとウィリアム・ジェイムズの批判  
鏑木政彦（九州大学）
  3. 自由主義と服従  
マルセル・ヴィッセンバーグ  
(ナイメヘン大学)
- 討論：半澤孝磨（首都大学東京）  
松本礼二（早稲田大学）

## 23. 政治思想学会 2 丸山真男、政治哲学者

11日 9:30-12:00 福岡国際会議場203

コンピーナー：平石直昭

司会：平石直昭（東京大学）

報告：

1. プロテスタント的想像力：丸山真男とR.ペラー、そして社会（自己）変容の問題  
アンドリュー・バーシェイ  
(カリフォルニア大学バークレー校)
  2. 丸山真男の「政治」概念  
孫歌（中国社会科学院）
  3. 西欧的観点からみた丸山真男における「近代」の理念  
ヴォルフガング・ザイフェルト  
(ハイデルベルグ大学)
- 討論：宮村治雄（成蹊大学）

## 24. 政治思想学会 3：カール・シュミット

11日 15:30-18:00 福岡国際会議場203

「21世紀におけるカール・シュミットの意義」

コンピーナー：古賀敬太

司会：千葉眞（国際基督教大学）

報告：

1. カール・シュミット——国際関係の理論家  
ハロルド・クラインシュミット  
(筑波大学)
  2. カール・シュミットと正戦論批判の系譜  
権左 武（北海道大学）
  3. カール・シュミットの自由主義批判——ブルジョワから市民へ  
古賀敬太（大阪国際大学）
- 討論：谷喬夫（新潟大学）  
杉田敦（法政大学）

## 25. 政治思想学会 4：ハンナ・アレント

10日 9:30-12:00 福岡国際会議場203

コンピーナー：千葉眞

司会：千葉眞（国際基督教大学）

報告：

1. 何が語られていないのか：アレントと暴力の政治哲学  
岡野八代（立命館大学）
2. アレントの政治概念再訪  
江宜樺（国立台湾大学）
3. 市民活動と根源的民主主義への道：ハンナ・アレントの地平から  
寺島俊穂（関西大学）

討論：森分大輔（国際基督教大学、成蹊大学）

## 26. 政治思想学会 5：フェミニズム

12日 9：30-12：00 福岡国際会議場203

コンピーナー：岡野八代

司会：岡野八代（立命館大学）

報告：

1. 公私二分論を考える——仕事と母親業を分ける市政の子育て戦略

マリヤ・ヤンソン

（ストックホルム大学）

2. タイ政治における公私分離と女性がおかれる位置

シャリダポーン・ソングサンファン

（タマサート大学）

3. 地域通貨運動——女性の家内労働の評価？

アイリーン・トン（香港大学）

討論：ペトリス・フラワーズ（ハワイ大学）

## 27. 政治思想学会 6：地球的視座における、公共哲学としての民主主義

12日 15：30-18：00 福岡国際会議場203

コンピーナー：小林正弥

司会：小林正弥（千葉大学）

報告：

1. 一体、今日なぜ私達はみな民主主義者なのだろうか？

ジョン・ダン（ケンブリッジ大学）

2. 試練に立つデモクラシー——丸山眞男と戦後日本

加藤節（成蹊大学）

3. 現代フランスのデモクラシー論

宇野重規（東京大学）

4. 民主主義、コミュニタリアニズム、そして共和主義

小林正弥（千葉大学）

討論：蔡孟翰（同志社大学）

## 28. 政治思想学会 7：多様性の時代における正義

13日 9：30-12：00 福岡国際会議場203

コンピーナー：飯田文雄

司会：辻康夫（北海道大学）

報告：

1. 民主的討議と周辺化された集団：討議的世論調査の事例を手がかりに

デイビッド・カヘイン（アルバータ大学）

2. ポスト構造主義と表象の政治学

キャサリン・ケロッグ（アルバータ大学）

3. 異なった社会における討議と多様性

早川誠（立正大学）

4. 多文化主義はマイノリティー・ポリティクスと両立するのか

飯田文雄（神戸大学）

討論：辻康夫（北海道大学）

## 29. 政治思想学会 8 リベラリズム、多元主義、マルチカルチュラリズム

12日 9：30-12：00 福岡国際会議場201

コンピーナー：佐藤正志

司会：飯島昇藏（早稲田大学）

報告：

1. マルチカルチュラリズムの再検討

ポール・ケリー（LSE）

2. イギリス多元主義の多元的な道

ロドニー・バーカー（LSE）

3. アイザイア・バーリンとアイデンティティの政治

森達也（聖学院大学）

討論：山岡龍一（放送大学）

## 30. 選挙研究の新たな方向性

10日 9：30-12：00 福岡サンパレス 4 F 第3会議室

コンピーナー：山田真裕

司会：山田真裕（関西学院大学）

報告：

1. ANES (The American National Election Studies) 調査の再構築、2006-2009

アーサー・ルピア（ミシガン大学）

ジョン・A・クロズニック

（スタンフォード大学）

2. CSES (The Comparative Study of Electoral Systems) プロジェクトの概要

イアン・マカリスト

（オーストラリア国立大学）

討論：西澤由隆（同志社大学）

## 『年報政治学』2007年度第1号特集論文公募のお知らせ

2007年度第1号年報委員長 李 鍾 元  
査読委員会委員長 杉本 稔

特集テーマ：「戦争と政治学」  
趣旨：冷戦終結とグローバル化の進展とともに、戦争の様相も大きく変容しています。様々なレベルで暴力が拡散し、戦争の主体・形態・目的・手段などの面で、「新しい戦争」をめぐる議論が展開されています。民族紛争やテロ、反テロ戦争という名の「新しい戦争」など、現実の問題や政策課題としての関心が高まる中、近代主権国家・国民国家の構造的な変容というマクロ歴史的な文脈を踏まえつつ、学問としての政治学の現状と可能

性を広く探求したいと考えています。  
特集テーマに関わる論文を広く公募しております。ふるってご応募ください。締め切り時期、送付先は以下のとおりです。  
締め切り時期：2006年9月30日  
送付先：sugimoto@law.nihon-u.ac.jp  
〒101-8375 東京都千代田区三崎町2-3-1  
日本大学法学部 杉本研究室気付け  
日本政治学会査読委員会

## 『年報政治学』2007年度第2号特集論文公募のお知らせ

2007年度第2号年報委員長 河田 潤一  
査読委員会委員長 杉本 稔

特集テーマ：「排除と包摂の政治学—越境、アイデンティティ、そして希望」  
趣旨：国籍、シティズンシップ、移民、共同体、性などをめぐり、国家、法、政治、階級、人種、宗教、偏見などによって原基的 (primordial) / 機能的に構造化=制度化される<排除 (exclusion) / 包摂 (inclusion)>の力学を、人の移動 (離脱と越境)、本質主義的アイデンティティの反省=再統合化プロセス、社会的排除 (social exclusion) の論理と実態のなかに探り、あるいは神でもマモンでもなく、「人間」の価値に中心

を置く連帯と寛容が育む「《希望》の政治学」の可能性を探究することを目的とする。  
特集テーマに関わる論文を広く公募しております。ふるってご応募ください。締め切り時期、送付先は以下のとおりです。  
締め切り時期：2007年3月31日  
送付先：sugimoto@law.nihon-u.ac.jp  
〒101-8375 東京都千代田区三崎町2-3-1  
日本大学法学部 杉本研究室気付け  
日本政治学会査読委員会

## 『年報政治学』独立論文公募のお知らせ

査読委員会委員長 杉本 稔

ご承知のように『年報政治学』は2005年度から年に2回刊行されています。この年2回刊行体制に対応し、公募論文の公正かつ迅速な審査を行うため、昨年10月に新たに査読委員会が設置され、2006年第2号の年報から担当します。査読委員会は正副委員長のほか、5名の委員によって組織されますが、実際の査読を担当するわけではなく、査読者を選定し、その査読結果に基づいて掲載論文を確定する役目を負っています。

『年報』に掲載される公募論文は、特集テーマに関連した「特集論文」と特定のテーマに関連しない「独立論文」に区分されます。独立論文には

特定の締め切り期日は設けませんが、2007年度第1号 (2007年6月刊行予定) に掲載を希望される方は、2006年10月31日までに提出して下さい。  
会員の皆様は、日本政治学会ホームページまたは会報50号に掲載されている「論文投稿規程」および「査読委員会規程」をお読みになり、奮って論文をお寄せ下さい。  
公募論文提出先：sugimoto@law.nihon-u.ac.jp  
〒101-8375 東京都千代田区三崎町2-3-1  
日本大学法学部 杉本研究室気付け  
日本政治学会査読委員会

## 日本政治学会 2005年度第4回理事会記録

日時：2005年12月17日（土）14時00分～16時00分  
場所：東京大学法学部研究室203号会議室

第4回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

### 1. 事務局報告

#### (1) 日本学術会議の改組について

大串常務理事より、このたび日本学術会議の改組にあたって、学術研究団体との関係を維持するために、一定の条件を満たす団体に「日本学術会議協力学術研究団体」という称号を付与して関係を維持して行く旨の連絡を受けたため、日本政治学会としても日本学術会議に同称号を申請した旨報告がなされた。

#### (2) IPSA執行委員について

渡辺理事長より、現在IPSA執行委員会に日本からは大嶽秀夫理事が執行委員として入っており、2006年で3年の任期が切れるものの、従来特段の事情がない限り2期お願いしているため、引き続き執行委員に立候補して2期目の3年間を務められるよう、理事長として大嶽理事に要請し、了承を得た旨報告がなされた。

#### (3) 日韓学術交流協定の調印について

渡辺理事長より、去る12月1日、韓国政治学会研究大会がソウルにて開催された際、かねて御審議いただいた日韓政治学会の交流協定の調印式が行われた旨報告がなされた。

### 2. IPSA福岡大会について

蒲島理事より、IPSA世界大会の準備状況に関して以下の通り報告がなされた。

(1) 今月13～15日、イボンヌ・ガリガン副会長・プログラム委員長とラシャベル事務総長が来日して協議した結果、組織委員会と本部の間に存在した懸案がほぼ解決した。

(2) プレナリーセッションの企画が進み、以下の5名の方をお願いする旨決定した。マックス・カーゼ、セオドア・ローウィ、チャールズ・ティリー、ギジェルモ・オドネル、緒方貞子

(3) これまでパネルの応募が480、ペーパーの応募が約2000あり、全てを受け入れることは出来ないで約15%を不採択とした。IPSA本部は約1500名が福岡に来るのではないかと予想している。組織委員会としては外国から最低1000名の参加があれば成功と思っていたので安心している。

(小林理事補足) パネルは日本側企画が30、メインテーマが40、公募が330である。具体的なプログラム設定については、非常に複雑な中で出来るだけテーマ的な重複を避けるよう留意しているのでご一任頂きたい。

(4) 17室で行う関係上、IPSAの計画では各室1日5スロット（各1時間45分。休憩なし）というタイトなスケジュールとなる。

(5) 中国・韓国・台湾からの参加者が多いと当初予想していたが、IPSAとの関係に問題があるためか中台からの参加者が少なく、その代わり欧州・米国・カナダからの参加者が多い。

(6) 募金は順調に集まっており、募金を約束した方全員の入金によって目標額に達する見込みである。

(7) 福岡市・福岡県は大変協力的であり、協調しつつ計画を進めているところである。

(8) 開会式において要人の挨拶をお願いしているが、実現するかは未定である。

また、渡辺理事長より、通常日本政治学会総会・研究会で会員に提供される無料の飲料サービスは、来年の研究会ではIPSA世界大会の参加者と渾然一体となる関係上行うことができない旨付言された。

### 3. 各種委員会報告

#### (1) 2005年度企画委員会

久米郁男委員長（事務局により補足）より、10月1・2日に開催された2005年度研究会は、ポスターセッションも含めて全体的に成功をおさめたものの、今後の課題として公募の数を増やしていく努力が必要であるという認識が示された。また、他の学会で報告し、かつその学会誌に掲載し

た論文とほぼ同内容である報告が一件あったことが、事後の指摘により発覚した旨報告がなされ、勿論報告者である会員の良心に待つしかないとしても、今後この問題も検討課題となろうという認識が示された。最後に、開催校である明治大学をはじめ関係各位への謝意が述べられた。

## (2) 2006年度企画委員会

竹中千春委員長より、来年のIPSA世界大会と同時に開催される研究会の準備状況について、以下の通り報告がなされた。

- a) 12月発行の会報において企画の趣旨とプログラムを収録した。
- b) IPSAの合同テーマ「Is Democracy Working?」に合わせて、日本政治学会としては民主主義と安全保障をテーマとして掲げることにした。当日午前中は「民主主義は市民社会を守るか」という題目で、午後は「民主主義は国際平和をつくるか」という題目で開催する予定である。
- c) 報告者等への依頼状は既に送付した。
- d) サントリー財団等からも資金を提供して頂くはこびである。
- e) 明石康氏、および韓国の崔相龍氏には謝金を払う予定である。

## (3) 2005年度年報委員会

小林良彰委員長より、既に発行された2005年度第1号は、当初締め切りまでに入稿しない執筆者の発生を見越して論文数を多めにしていたところ全員入稿したため、予定よりも少々厚いものになった旨報告がなされた。また、第2号は既に11月末に入稿を済ませている旨報告がなされた。そして、投稿は10本あり、このうち6本について2～3回修正を加えたものを掲載することにしており、総じて掲載可能性は高いため、より多くの会員に積極的な投稿を働きかけて誌面を盛り上げて行きたい旨報告がなされた。

新しい年報について、公明新聞ほか2地方紙が短い書評を掲載しており、学界展望としての利用価値があるといった評価がなされるなど、一般的にみて好意的に受け止められている旨報告がなされた。

## (4) 2006年度第1号年報委員会

山口二郎委員長（大串常務理事代読）より、12

月3日に年報委員会を開催し、論文集および公募論文についての進捗状況について確認し、今後來年5月初旬に論文報告会を行い完成を目指す旨、また公募論文については現在7本が提出されており審査中である旨報告がなされた。

## (5) 2006年度第2号年報委員会

小野耕二委員長より、テーマ「政治学の新潮流」に沿って、2006年10月締切を目指して研究会を実施している旨報告がなされた。

## (6) 2007年度第1号年報委員会

李鍾元委員長（大串常務理事代読）より、書類の不備があったゆえに科学研究費補助金に応募できなかったため、他の研究費を使って研究会を開催したい旨、ならびに年報の内容については各委員と協議を進めており、2006年1月末に東京で会合を計画している旨報告がなされた。

## (7) 2007年度第2号年報委員会

河田潤一委員長より、「排除と包摂の政治学——越境、アイデンティティそして希望」というテーマに沿って科学研究費補助金を申請中であるものの、結果はまだ不明である旨、ならびに会報に公募のお知らせを掲載し、締切を2007年3月31日とした旨報告がなされた。

## (8) 2005年度文献委員会

杉本稔委員長より、当文献委員会の職務は、2005年度第1号年報に合わせて7月に入稿したことにより、ほぼ終了した旨報告がなされた。

## (9) 2006年度文献委員会

河田潤一委員長より、年報の年2回刊行化に伴い、刊行スケジュールが変わるので、2005年の業績を2006年1月21日までに申告して頂くことにした旨報告がなされた。

## (10) 査読委員会

杉本稔委員長より、まだ本格的な活動は始まっていないものの、既に会報において論文の公募を告知しており、かつ11月の段階で委員を招集して、作業の具体的な手順について説明を行うなど、準備を整えている旨報告がなされた。

## (11) 国際交流委員会

千葉眞委員長より、来年度のアメリカ政治学会に山田真裕・山田竜作会員を、イギリス政治学会に中山洋平会員を派遣することにした旨、ならびに既に12月1日に開催された韓国政治学会に浅羽

祐樹会員を派遣した（本来2名派遣のはずが1名は直前でキャンセルとなった）旨報告がなされた。

また、韓国政治学会との交流協定については、事務局を中心に文言の詰めを行った上で締結に至った旨報告がなされた。

9月30日、東京神田の学士会館で開催された日韓国交正常化40周年記念・日韓東京会議は、80～100名の参加者を数える盛会となった旨報告がなされた。

#### 4. 査読委員会の活動費について

理事長より、新たに活動を開始した査読委員会の活動費については、一定額を委員長に渡し切りとしてその範囲内で活動してもらうこととしたい旨、また活動費の額については、他の委員会とのバランスや委員数を勘案して、年間7万円（今年度は3万円）とし、今年度については予備費から支出したい旨、および実際に活動して明らか不足が判明すれば増額することがありうる旨諮られ、了承された。

#### 5. 韓国政治学会からの申し出について

理事長より、去る12月初めの韓国政治学会において在韓日本人研究者を交えて日韓交流セッションが開催され、日本側参加者全員が韓国語に通曉していたこともあって盛会となった旨、またこのとき韓国側の提案により韓日米中露5カ国の政治学会会長会議が開催され、「北東アジアの平和を実現するために政治学は何をなし得るか」というテーマで討論を行い、研究交流を今後深めて行くことを確認した旨報告がなされた。

続いて理事長より、韓国政治学会としては毎年1回日韓双方で交流セッションを開催することを希望しており、2006年はIPSA世界大会のために日本側における10月の研究会が開催されないことから、IPSA開催中に交流セッションを開催出来ないかという申し出があった旨報告がなされた。

これをうけて理事会で検討がなされた結果、IPSA世界大会開催中は日本側に余裕がないため、10月の理事会と合わせて交流セッションを開催するという案を韓国側に申し入れることとなった。

#### 6. 年報政治学の表紙の色について

理事長より、このたび新体制・新装丁に移行した年報政治学について、出版元の木鐸社のデザイナーから、表紙の色を毎年変える（ただし第1号と第2号は色の濃淡を反転させて区別する）という提案があった旨報告がなされた。これをうけて理事会で検討した結果、前回決定の方針（毎年でなく、毎号色を変える）を確認した。

#### 7. 会報への広告掲載について

理事長より、APSAの研究誌を発行しているケンブリッジ大学出版会から「日本政治学会の会報にAPSAの雑誌広告を掲載することは可能か」という問い合わせがあった旨報告がなされ、今後会報に有料広告の掲載を認めるべきか否かについて諮られた。

これをうけて意見を交換した結果、広告掲載によって会報の品位が低下することを回避するため、当面は原則として認めないものの、IPSA世界大会に合わせて郵送する資料の中にはAPSAの雑誌広告の封入を認めることとした。また、広告封入料金については他学会の実情を考慮しつつ今後適切な額を設定することとした。なお、各国政治学会及び学術出版社との関係に鑑みて、一定の範囲内での広告掲載を引き続き検討して行くことが望ましいという意見も示された。

#### 8. 『年報政治学』への編集委員名の記載について

理事長より、『年報政治学』には従来編集委員名を記載して来なかったが、日本政治学会では年報委員会と査読委員会の双方が編集委員会の機能を担っており、他の学会機関誌とはシステムが異なることから、これまで通り編集委員名を記載しない方針としたい旨諮られ、了承された。

#### 9. *Encounters* 誌からの呼びかけに対する対応について

理事長より、カナダに本拠を置いているオンライン誌*Encounters: Political Science in Transition*より、日本政治学会から毎年1本の論文を推薦して欲しい旨の要請があったものの、これに応じた場合には新たな公募の枠組みと審査委員会を

立ち上げなければならず、一方、*Encounters* 誌がどの程度世界的に参照されるものになるのかも未知数であることから、当面は様子を見ることにしたい旨諮られ、了承された。

## 10. APISAについて

理事長より、去る7月マレーシアに本部を置いているAPISA (Asian Political & International Studies Association) から「執行委員会をバンコクにて開催するのは是非出席されたい」との要請を受けたものの、直前の要請で時間的に余裕もないことから丁重にお断りした旨、ならびにAPISAとは別にACPR (アジア政治研究連合) という組織も発足し、日本からも複数の参加者がある旨報告がなされた。そこで理事長より、今後これらアジア諸国の政治学者の団体からの要請にどのように対応すべきか諮られ、審議の結果、まずは情報交換など互いの状況を知るところから始めることが望ましいという認識で一致した。

## 11. 学会宛に寄贈された図書・雑誌類の処分について

大串常務理事より、学会事務局宛に送られる図書・雑誌類は事務局で死蔵されており、場所を取る上、事務局移転時に移転費用を増加させることから、事務局が移転する際に適切に処分することを理事会の方針として承認されたい旨諮られ、了承された。

## 12. 理事会以外の公務旅費を学会予算で負担する件について

理事長より、2006年10月の理事会交替時から、事務局引継ぎ時のために新事務局常務理事・幹事が他都道府県の旧事務局に向かう場合、および総会・研究会準備のために企画委員長と常務理事が開催校を視察する場合に、学会が交通費を負担することにはどうかと諮られ、審議の結果承認された。

事務局引継ぎと開催校視察以外の臨時的な公務出張についてはその都度理事会の事前または事後の承認を得ること、また理事会出席のための交通費は従来通り自己負担であることが確認された。

## 13. 新入会員について

以下の各氏を新入会員として承認した。(五十音順、敬称略) 今井亮佑、大田原崇宏、梶田秀、金子俊也、木寺元、栗栖薫子、小林秀高、篠原佑実、瀬島誠、田才徳彦、田村秀、友次晋介、中溝和弥、奈良岡聰智、毛里和子、山岸敬和、山田高敬、吉田徹。

この結果、会員数は1591名となった。

## 14. 次回理事会について

理事長より、次回理事会は2006年3月11日(土)に東京大学にて開催したい旨諮られ、承認された。

## 日本政治学会 2005年度第5回理事会記録

日時：2005年3月11日(土) 13時00分～14時35分  
場所：東京大学法学部研究室203号室

第5回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

### 1. 事務局報告

#### (1) 名簿作成のためのアンケートについて

大串常務理事より、2006年度版会員名簿作成のためのアンケートを間もなく発送する旨報告がなされた。従来のアンケートとの変更点として、専

門索引番号を従来の2つ以内から3つ以内に増やし、また出版社等からの広告等の送付のために住所提供の依頼を受けた際、会報等の送付先住所を開示しても良いか否かを問う項目を設けた旨説明がなされた。また、近年における政治学の発展状況に鑑み、次回に名簿を作成する際には専門別分類自体を改訂することも検討課題となりうることが示唆された。

#### (2) 2006年度総会・研究会の案内について

大串常務理事より、既に12月の会報の号外にお

いて、福岡にて開催されるIPSA世界大会・日本政治学会2006年度研究会について周知を図ったものの、より多くの会員の参加を促すことが大会の成功につながることから、割引登録の期限が切れる3月末の前にもう一度案内を送付することとし、名簿作成アンケートに同封することにした旨報告がなされた。

### (3) 科研費審査委員候補者の情報提供に関する依頼について

大串常務理事より、日本学術会議を通じて日本学術振興会から科学研究費補助金の審査委員候補者に関する情報提供の依頼があったこと、提出期限が2月末で理事会に諮る時間的余裕がなかったため、専門分野・勤務地・研究対象地域・出身大学・ジェンダーバランス等を考慮した候補者リストを事務局で作成し、本人の了承が得られた8名について情報提供を行った旨報告がなされた。

## 2. 各委員会報告

### (1) 2006年度企画委員会

竹中千春委員長より、IPSA福岡大会と同時に開催される2006年度研究会の準備状況に関して以下の通り報告がなされた。

- a) 全体的に見れば今のところ順調であり、外部資金獲得も実現しつつある。外部資金で運営の相当程度を賄える場合は、既に同時通訳費用等のために日本政治学会予算からの支出を認められている分を戻すことにしたいと考えている。
- b) 日本政治学会とIPSAを広くアピールするため、若手の研究者のより一層の参加を呼びかける。但し、会場運営上の都合や、会員のための研究会という性格を損ねないという見地から、新たな参加者については日本政治学会会員またはIPSA会員としての登録を条件とする。
- c) 一方、外部資金を得ている関係上、バランスある公開性を確保することにしたい。関係する助成団体・国際交流関係団体には招待状を送りたい。なお、税負担者としての地元民への配慮として市民講座を開催するので、日本政治学会の研究会への市民の参加は考慮しない。
- d) 例年の研究会と異なり、開催校事務局は存在しないため、日本政治学会事務局およびIPSA

組織委員会事務局と調整しながら企画を進めることになるものの、日本政治学会としての意思決定が必要になる場面も今後あり得ることから、その都度適宜理事各位に周知を図り協力を仰ぐことになる。

理事会の席上では、上記の報告内容を確認したうえで、メディア取材への対応について検討し、メディアを個別に招いたりしないこと、来場したメディア関係者に対してはメディア対応担当者を通じてプレスバッジを付与する旨を確認した。また、研究会への招待者・参加者を決定するのは企画委員会ではなく、理事会または日本政治学会事務局であることが確認された。

### (2) 2005年度年報委員会

小林良彰委員長より、『年報政治学』2005年度第2号が既に完成し3月中旬に発送予定である旨、ならびにこの中に収録した公募論文は応募5本のうち3本であり、今年度分を通算すると応募10本中6本を採用した旨報告がなされた。

### (3) 2006年度第1号年報委員会

山口二郎委員長より、12月に年報委員を集めて研究会を開催したのち現在鋭意執筆中であり、5月に改めて研究会を開催する予定である旨、ならびに投稿論文の査読はほぼ終了して近々採用論文を決定予定であり、最終的には10月頃の刊行予定である旨報告がなされた。

### (4) 2006年度第2号年報委員会

小野耕二委員長より（大串常務理事代読）、3月9-10日に名古屋大学で研究会を行い、年報委員全員が出席して論文の構想発表を行った旨、ならびに8月に論文を提出予定であり、科学研究費を獲得できた場合にはこの時期に改めて研究会を開催する予定である旨報告がなされた。

### (5) 2007年度第1号年報委員会

李鍾元委員長より（大串常務理事代読）、4月中旬に研究会を開催予定である旨報告がなされた。



## (6) 2007年度第2号年報委員会

河田潤一委員長より、4月15日に研究会を開催予定である旨報告がなされた。

## (7) 2006年度文献委員会

河田潤一委員長より、合計575名の会員から業績申告書の提出を受け、これらをコピーのうえ各委員に分配を済ませ、原稿の締切は4月30日としている旨報告がなされた。

## (8) 査読委員会

杉本稔委員長より、新しい査読・投稿体制がまだ会員のあいだで十分に理解されておらず、誤った手続きで応募する会員もいることから、学会ホームページなどに掲載されている査読・投稿規定を確認するよう周知を図る必要がある旨報告がなされた。

## (9) 国際交流委員会

千葉眞委員長より（大串常務理事代読）、2006年度の日韓交流セッションについては、木宮正史小委員長を通じて交渉中であり、開催するとすれば10月の理事会に合わせることになろうという見通しが報告された。

## 3. 『年報政治学』への投稿規程等の掲載について

大串常務理事より、査読委員長の報告と関連し、毎年度第1号の『年報政治学』に投稿規程・査読委員会規程を掲載し、周知を図りたいとの提案がなされ、承認された。また、学会規約については従来『年報政治学』に掲載されていたものの、会員名簿と学会ホームページにも掲載されていること、今後『年報』は会員外に広く市販すべきことを考慮して、『年報』には掲載しないとの提案がなされ、承認された。

## 4. 2005年度決算について

2005年度決算について宇野幹事より、以下の説明がなされた。

a) 会費収入は2004年度の実績を上回っているものの、2005年度予算案作成の際に会費収入の見通しを算定した際、学会事務センターの破産の影響で除名手続きが遅れたことから、予算額で

は除名分を含んだ計算となり、結果的に決算が予算を下回ることになった。

b) 学会事務センターの一部の元理事から支払われた和解金（110,050円）は、雑収入に組み入れた。

c) 昨年4月からの(株)アドスリーへの事務委託に伴い、会報・年報の送付用に新たに封筒を印刷する必要が生じたこと、ならびに会報訂正の発送に伴う業務費が発生したことにより、事務局経費・事務委託経費は予算をオーバーした。一方、人件費についてはアルバイトを余り用いなかったことから大幅に減少している。

d) 年報費について、第2号が未発行の時点で2005年度の会計を閉じたため、決算の数字は第1号の制作・発行費のみであるものの、出版社を変更して大幅にコストダウンした結果、1・2号合わせた年報費の総額は従来の総額を下回る見込みである。

e) 新たに発足した2006年度第2号年報委員会及び査読委員会に対し、理事会決定に基づき、それぞれ30万円と3万円を支出した。

f) 名簿作成積立金別会計については、事前アンケート調査の執行が決算時に間に合わなかったため、来年度予算で支出する。

以上の決算案について、福永文夫・星野智監事より、午前中に帳簿・領収書・通帳等を照合し、慎重に監査を行った結果、会計事務は適正に行われており決算は真正であることを確認した旨報告がなされた。

そのうえで、渡辺理事長より本決算の承認の可否が諮られ、原案通り承認された。

## 5. 2006年度予算について

宇野幹事より予算案が示され、以下の説明がなされた。

a) 収入は繰越金・会費収入見込（所定の計算式による）・学会事務センター和解金を除いた昨年度実績の概数による雑収入（前年度実績）の総和である。

b) 研究会開催費は通常の年と異なり、開催校に支出するのではなく、福岡での研究会の開催費用を事務局から直接から支出する。具体的には、日本旅行(株)への支払分と6月に発行する

予定の大会案内・報告要旨集の印刷・封入代の総和である。

- c) 2006年度は理事選挙がないため選挙管理委員会予算がなく、査読委員会予算を新たに加えている。年報委員会予算については、『年報政治学』の年2回刊行体制移行に伴い、年1号時代の標準予算を倍としている。企画委員会予算については、準備を早くから進めるために2006年度企画委員会の経費支払を前倒したことから、例年の半額としている。
- d) 事務局経費は、昨年度事務局で行った会費請求費用の分を減らして従来並みとし、また事務局移転の年に当たるので事務局移転費を設定した。事務局移転費用には、移転時に必要となる2年分の封筒印刷代が含まれている。また、(株)アドスリーへの委託経費の中に、年報・会報の郵送費も組み入れることにした(発送がアドスリーに一元化され、アドスリーからまとめて請求されるため)。その結果、従来の「会報発行費」「年報費」をそれぞれ「会報印刷費」「年報印刷費」と改めた。年報印刷費は、2005年度第2号の執行がずれ込み、3号分の予算計上となった。
- e) 名簿作成費用は、(株)アドスリーの見積もりに基づいて算出した数字に余裕を持たせたものであり、さらに2005年度に支出予定であった事前調査費を加えた。
- f) 国際交流基金への積み立ては既に行っており、また、ペイオフ施行に備え決済専用口座に移行させたため、収入・利息増はない。「執行計画」を「IPSA福岡大会開催費」と改めて、用途を明確化している。また、国際交流プログラ

ム助成費は、昨年度と同じ予算にIPSA世界大会と同時開催の日本政治学会における同時通訳費用を加えたものである。

以上の予算案について、さらに渡辺理事長より、年報印刷費を1号あたり220万円と計上していることに関する補足説明がなされ、審議の結果、頁数増による印刷費の若干の超過がありうることを含んだ上で原案通りとすることとし、予算案が承認された。

## 6. 入会承認について

以下9名の各氏を新入会員として承認した(事務局受付順、敬称略)

塩沢健一・後藤雅彦・戸澤英典・徐承元・岸本一男・柳始賢・大友貴史・高城幸一・勝田美穂

この結果、今年度限りで退会予定の6名を差し引くと、4月2日現在の会員数は1590名になる見込みである。

## 7. 2005年度予算別会計における誤記について

渡辺理事長より、2004年度別会計国際交流基金決算における収支残高の金額が本来そのまま2005年度予算の前年度繰越金として記されるべきところ、何らかの原因によって誤記が発生し、結果的に2005年度予算の国際交流基金関連の数字が若干不正確になってしまっている旨報告と陳謝がなされ、訂正がなされた。

## 8. 次回理事会について

渡辺理事長より、次回理事会は2006年7月8日(土)、福岡国際会議場にて開催したい旨諮られ、承認された。

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 2004年度決算および2005年度予算訂正について

日本政治学会事務局

会報第49号（2005年6月）の14頁に掲載いたしました「日本政治学会2004年度決算報告」において、別会計についての記載が抜け落ちておりました。また、同じ号に掲載されました「日本政治学

会2005年度予算」につきましても、誤記がございました。重ねてお詫びするとともに追加・訂正させていただきます。

### 2004年度決算 別会計 費目

		予 算 額	通 年 執 行 額	差 引
<b>1 名簿作成積立金</b>				
収入	1 前年度繰越金	801,068	801,068	0
	2 本年度積立金	0	0	0
	3 利息	16	10	-6
	収入合計	801,084	801,078	-6 (A)
支出	1 名簿作成費用	0	0	0
	2 予備費	801,084	0	801,084
	支出合計	801,084	0	801,084 (B)
収支残高			801,078	(A)+(B)

### 2 国際交流基金

収入	1 前年度繰越金	20,253,311	20,253,311	0
	2 本年度積立金	0	0	0
	3 利息	207	162	-45
	収入合計	20,253,518	20,253,473	-45 (A)
支出	1 執行計画	3,000,000	150,260	2,849,740
	2 予備費	1,000,000	0	1,000,000
	支出合計	4,000,000	150,260	3,849,740 (B)
収支残高			20,103,213	(A)+(B)

### 2005年度予算別会計

		予 算 額
<b>2 国際交流基金 費目</b>		
収入	1 前年度繰越金	20,103,213
	2 本年度積立金	0
	3 利息	202
	収入合計	20,103,415
支出	1 執行計画	3,000,000
	2 国際交流プログラム助成費	300,000
	3 予備費	1,000,000
	4 次年度繰越金	15,803,415
	支出合計	20,103,415

\* 下線部が訂正箇所

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 2005年度決算（案）

一般会計

[収入]	費目	予算額	通年執行額	差引
1	前年度繰越金	2,845,632	2,845,632	0
2	会費収入	11,237,450	11,066,709	-170,741
3	雑収入	72,000	183,557	111,557
	収入合計	14,155,082	14,095,898	-59,184

[支出]

		予算額	通年執行額	差引
1	研究会開催費	1,350,000	1,350,000	0
	A 研究会準備金	1,300,000	1,300,000	0
	B 報告者礼金	50,000	50,000	0
2	委員会経費	1,135,000	1,135,000	0
	A 年報委員会	525,000	525,000	0
	B 企画委員会	315,000	315,000	0
	C 文献委員会	190,000	190,000	0
	D 国際交流委員会	70,000	70,000	0
	E 選挙管理委員会	35,000	35,000	0
3	理事会経費	20,000	10,324	9,676
4	IPSA学会分担金	400,000	362,230	37,770
5	事務局経費	610,000	657,261	-47,261
	A 理事長通信費	100,000	100,000	0
	B 運営費	60,000	60,000	0
	C 人件費	200,000	108,960	91,040
	D 経常費	250,000	388,301	-138,301
6	アドスリー委託経費	1,450,000	1,451,850	-1,850
	A 業務委託費	1,200,000	1,181,512	18,488
	B 事務通信費	250,000	270,338	-20,338
7	名簿作成積立金	800,000	800,000	0
8	選挙管理費	400,000	301,852	98,148
9	会報発行費	550,000	600,899	-50,899
10	年報費	4,200,000	2,657,503	1,542,497
11	予備費	1,000,000	330,000	670,000
	支出小計	11,915,000	9,656,919	2,258,081
12	次年度繰越金	2,240,082	4,438,979	-2,198,897
	支出合計	14,155,082	14,095,898	59,184

前受金	42,500
-----	--------

一般会計資産

みずほ銀行普通口座	317,496
郵便振替口座	3,781,909
りそな銀行普通口座	382,074
合計	4,481,479

# 学 会 ニ ュ ー ス

別会計

		費目	予算額	通年執行額	差引
1 名簿作成積立金					
収入	1	前年度繰越金	801,078	801,078	0
	2	本年度積立金	800,000	800,000	0
	3	利息	16	7	9
	収入合計		1,601,094	1,601,085	9
支出	1	名簿作成費用	0	0	0
	2	事前調査費	250,000	0	250,000
	3	予備費	1,351,094	0	1,351,094
	支出合計		1,601,094	0	1,601,094
収支残高				1,601,085	
2 国際交流基金					
収入	1	前年度繰越金	20,103,213	20,103,213	0
	2	本年度積立金	0	0	0
	3	利息	202	22	180
	収入合計		20,103,415	20,103,235	180
支出	1	執行計画	3,000,000	3,000,000	0
	2	国際交流プログラム助成費	300,000	178,860	121,140
	3	予備費	1,000,000	500,000	500,000
	支出合計		4,300,000	3,678,860	621,140
収支残高				16,424,375	

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 2006年度予算（案）

### 一般会計

[収入]	費目	予算額
1	前年度繰越金	4,438,979
2	会費収入	11,208,350
3	雑収入	73,000
	収入合計	15,720,329

### [支出]

1	研究会開催費	600,000
2	委員会経費	855,000
	A 年報委員会	420,000
	B 企画委員会	105,000
	C 文献委員会	190,000
	D 国際交流委員会	70,000
	E 査読委員会	70,000
3	理事会経費	20,000
4	IPSA学会分担金	400,000
5	事務局経費	860,000
	A 理事長通信費	100,000
	B 運営費	60,000
	C 人件費	200,000
	D 経常費	150,000
	E 事務局移転費	350,000
6	アドスリー委託経費	2,350,000
	A 業務委託費	1,200,000
	B 事務通信費	1,150,000
7	名簿作成積立金	800,000
8	会報印刷費	250,000
9	年報印刷費	6,600,000
10	予備費	1,000,000
11	次年度繰越金	1,985,329
	支出合計	15,720,329

### 別会計

	費目	予算額
1 名簿作成積立金		
収入	1 前年度繰越金	1,601,085
	2 本年度積立金	800,000
	3 利息	7
	収入合計	2,401,092

支出	1 名簿作成費用	2,350,000
	2 予備費	51,092
	支出合計	2,401,092

### 2 国際交流基金

収入	1 前年度繰越金	16,424,375
	2 本年度積立金	0
	3 利息	0
	収入合計	16,424,375

支出	1 IPSA福岡大会開催費	3,000,000
	2 国際交流プログラム助成費	1,200,000
	3 予備費	1,000,000
	4 次年度繰越金	11,224,375
	支出合計	16,424,375



## 事務局より

### 会費納入についてのお願い

年会費をまだ納入されていない方が若干おられます。何とぞ速やかにご協力の程お願いいたします。一般会員は7,500円、学生会員は5,000円です。

ご不明な点は(株)アドスリーまでお問い合わせ下さい。

### 訂正とお詫び

3月にお送りしました、世界政治学会福岡大会の内容を紹介したパンフレット16頁に、誤記がございました。関係団体と会員の皆様にお詫びするとともに、訂正させていただきます。

(誤) セッション23. 世界思想学会1：丸山真男

(正) セッション23. 政治思想学会2：丸山真男

### 訃報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

古川俊一 筑波大学システム情報工学研究科教授  
行政学・地方制度 1948年生

### 本号の目次

1. 世界政治学会 (IPSA) 第20回世界大会 (福岡) への参加の呼びかけ .....	1
2. 2006年度日本政治学会研究会企画について .....	2
3. IPSA世界大会日本側組織委員会企画プログラム .....	4
4. 『年報政治学』2007年度第1号特集論文公募のお知らせ .....	11
5. 『年報政治学』2007年度第2号特集論文公募のお知らせ .....	11
6. 『年報政治学』独立論文公募のお知らせ .....	11
7. 理事会記録 .....	12
8. 2004年度決算および2005年度予算訂正について .....	19
9. 2005年度決算 (案) .....	20
10. 2006年度予算 (案) .....	22
11. 事務局より .....	24

2006年6月1日発行

発行 日本政治学会事務局

大 串 和 雄

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学法学部研究室内

FAX 03-3814-3210

E-mail [jpsa@j.u-tokyo.ac.jp](mailto:jpsa@j.u-tokyo.ac.jp)

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpsa2/>

(株)アドスリー 日本政治学会担当 (住所変更・会費)

〒164-0003 東京都中野区東中野4-27-37

TEL: 03-5925-2840

FAX: 03-5925-2913

E-mail [jpsa@adthree.com](mailto:jpsa@adthree.com)

印刷 よしみ工産(株)